

## 理学療法学科 カリキュラム

分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		3年次		4年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	2	30							2	30		14
		文学	2	30							2	30		
		自然科学Ⅰ	2	30							2	30	物理学・数学系	
		自然科学Ⅱ	2	30							2	30	生物学系	
		英語	2	30							2	30		
		保健体育	1	30							1	30	講義・実技	
		教育学					2	30			2	30		
		情報コミュニケーション学	1	30							1	30		
		統計学					2	30			2	30		
基礎分野	小計	12	210	0	0	4	60	0	0	16	270		14	
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び 心身の発達	解剖学Ⅰ	4	60							4	60		12
		解剖学Ⅱ	4	60							4	60		
		解剖学演習	1	30							1	30		
		生理学Ⅰ	4	60							4	60		
		生理学Ⅱ	4	60							4	60		
		生理学演習	1	30							1	30		
		運動学Ⅰ	4	60							4	60		
		運動学Ⅱ			2	30					2	30		
		人間発達学	2	30							2	30		
		生体力学			2	30					2	30		
	疾病と障害の 成り立ち 及び 回復過程の促進	病理学			2	30					2	30		14
		神経内科学Ⅰ	2	30							2	30		
		神経内科学Ⅱ			2	30					2	30		
		精神医学Ⅰ	2	30							2	30		
		精神医学Ⅱ			2	30					2	30		
		臨床心理学			2	30					2	30		
		基礎臨床医学Ⅰ			2	30					2	30	栄養・救急救命・予防	
		基礎臨床医学Ⅱ			2	30					2	30	薬学・画像	
		臨床医学Ⅰ			2	30					2	30	外科学・脳神経外科学	
		臨床医学Ⅱ			2	30					2	30	内科学・小児科学	
		臨床医学Ⅲ			2	30					2	30	一般臨床医学	
		整形外科Ⅰ			2	30					2	30		
整形外科Ⅱ			2	30					2	30				
保健医療福祉と リハビリテーション の理念	リハビリテーション医学概論	2	30							2	30		4	
	社会福祉学			1	15					1	15			
	地域包括ケアシステム論					2	30			2	30	自立支援・就労支援及び多職種連携含む		
	医学倫理・職業倫理学	2	30							2	30			
	公衆衛生学	1	15							1	15			
専門基礎分野	小計	33	525	27	405	2	30	0	0	62	960		30	

分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		3年次		4年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準	
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数					
専門分野	基礎理学療法学	理学療法学概論	2	60							2	60		6	
		臨床運動学			2	60					2	60			
		発達小児科学			1	30					1	30			
		臨床見学演習	1	30							1	30			
	理学療法管理学	理学療法管理学					2	60			2	60	職場管理、理学療法教育及び職業倫理含む	2	
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	1	30							1	30		6	
		理学療法評価学Ⅱ			1	30					1	30			
		理学療法評価学Ⅲ			1	30					1	30			
		動作解析学					1	30			1	30			
		画像評価学					1	30			1	30			
		評価学演習			1	30					1	30			
	理学療法治療学	運動療法学Ⅰ（総論）	1	30							1	30		20	
		運動療法学Ⅱ（中枢）			2	60					2	60			
		運動療法学Ⅲ（小児）					1	30			1	30			
		運動療法学Ⅳ（整形）			2	60					2	60			
		運動療法学Ⅴ（呼吸）					1	30			1	30	喀痰等の吸引含む		
		運動療法学Ⅵ（循環）					1	30			1	30			
		運動療法学Ⅶ（高齢者）					1	30			1	30			
		運動療法学Ⅷ（その他）					1	30			1	30			
		理学療法治療手技論					2	60			2	60			
		物理療法学					2	60			2	60			
		義肢装具学Ⅰ			1	30					1	30			
		義肢装具学Ⅱ					1	30			1	30			
		日常生活活動学			1	30					1	30			
		理学療法学研究Ⅰ					1	30			1	30			
		理学療法学研究Ⅱ								1	30	1	30		卒業論文作成含む
		理学療法演習Ⅰ	1	30							1	30			
		理学療法演習Ⅱ			1	30					1	30			
		理学療法演習Ⅲ					1	30			1	30			
	理学療法演習Ⅳ								2	60	2	60			
	地域理学療法学	生活環境論					1	30			1	30		3	
		地域理学療法学			1	30					1	30			
		福祉用具論					1	30			1	30			
介護演習		1	30							1	30				
臨床実習	評価実習			3	120					3	120		20		
	地域理学療法学実習					1	40			1	40				
	臨床実習Ⅰ					7	280			7	280				
	臨床実習Ⅱ							8	360	8	360				
	臨床実習Ⅲ							8	360	8	360				
専門分野	小計	7	210	17	540	26	860	19	810	69	2420		57		
	総計	52	945	44	945	32	950	19	810	147	3650		101		



2 年 次

令和5年度 前学期

## 時間割

理学療法学科 2年

		月	火	水	木	金
1	9:00~ 10:30		臨床医学Ⅲ 西田	臨床医学Ⅲ 冬田	理学療法評価学Ⅲ 坂本	日常生活活動学 次山 整形外科Ⅰ 高井浩和
2	10:40~ 12:10	臨床心理学 古閑	運動療法学Ⅱ (中枢) 池田	運動療法学Ⅳ (整形) 高田		神経内科学Ⅱ 池田
3	13:10~ 14:40	生体力学 坂崎	整形外科Ⅰ 中島 臨床運動学 福島	理学療法評価学Ⅱ 福島	臨床医学Ⅱ 岩谷, 次山	臨床医学Ⅲ 小松 整形外科Ⅰ 高井聖子
4	14:50~ 16:20		精神医学Ⅱ 宮内, 杉本, 白石	整形外科Ⅰ 中根	臨床医学Ⅲ 崎山 臨床運動学 明瀬	整形外科Ⅰ 高井聖子

令和5年度 後学期

## 時間割

理学療法学科 2年

		月	火	水	木	金
1	9:00~ 10:30		地域理学療法学 坂崎	運動療法学Ⅳ (整形) 高田	発達小児科学 山内	
2	10:40~ 12:10	理学療法演習Ⅱ 次山	整形外科Ⅱ 宮本, 福島	運動学Ⅱ 明瀬	義肢装具学Ⅰ 本田, P T 講師	臨床運動学 明瀬
3	13:10~ 14:40	臨床医学Ⅰ 廣田	運動療法学Ⅱ (中枢) 池田	基礎臨床医学Ⅰ 嶋津	臨床医学Ⅰ 末吉 運動療法学Ⅳ (整形) 福島	基礎臨床医学Ⅱ 馬場 社会福祉学 井上
4	14:50~ 16:20		病理学 山本		基礎臨床医学Ⅱ 森 基礎臨床医学Ⅰ 加藤	

※「時間割」は変更されることがあります。

## 目次：理学療法学科 2 年次

運動学Ⅱ	41
生体力学	42
病理学	43
神経内科学Ⅱ	44
精神医学Ⅱ	45
臨床心理学	46
基礎臨床医学Ⅰ	47
基礎臨床医学Ⅱ	48
臨床医学Ⅰ	49
臨床医学Ⅱ	50
臨床医学Ⅲ	51
整形外科学Ⅰ	52
整形外科学Ⅱ	53
社会福祉学	54
臨床運動学	55
発達小児科学	56
理学療法評価学Ⅱ	57
理学療法評価学Ⅲ	58
評価学演習	59
運動療法学Ⅱ（中枢）	60
運動療法学Ⅳ（整形）	62
義肢装具学Ⅰ	63
日常生活活動学	64
理学療法演習Ⅱ	65
地域理学療法学	66
評価実習	68

学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	運動学Ⅱ
代 表 講 師	明 瀬 敬 二 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・実技	単位数	2	学期・回数	前期：15回(30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	解剖学分野での経験を持つ理学療法学科教員が、体表解剖について実技を踏まえながら講義を行う。				
授 業 概 要	骨格筋を上肢・下肢・体幹などの領域別に分け、筋の起始停止・走行について学び、骨などを指標として体表より触察する知識と技術を学ぶ。各単元毎には、実技確認試験を行い知識技術の定着に努める。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法評価の実践を学ぶ上で基本となる各種のランドマークを触察することができる。</li> <li>・運動器に対する評価と理学療法の実践を学ぶために、骨格や関節及び筋を個々に触察できる。</li> <li>・筋の作用・起始停止・神経支配・走行について学習し、筋の触察と関連付けることができる。</li> </ul>				
成績評価の方法と基準	単元毎に形成的評価を実施 ※筆記試験は実施しない。				
テキスト・教材等	『骨格筋の形と触察法』、その他				
回 数	授 業 内 容				
第1回	骨盤・下肢骨の形態を想起し、体表からランドマークを触知することができる。				
第2回	殿部筋群の起始停止走行および層について理解し、体表から触察することができる。				
第3回	大腿筋群の起始停止走行及び層について理解し、体表から触察することができる。				
第4回	大腿筋群の起始停止走行及び層について理解し、体表から触察することができる。				
第5回	下腿筋群の起始停止走行及び層について理解し、体表から触察することができる。				
第6回	上肢帯・上腕骨の形態を想起し、体表からランドマークを触知することができる。				
第7回	上肢帯筋群の起始停止走行および層について理解し、体表から触察することができる。				
第8回	腱板の役割と筋の起始停止走行および層について理解し、体表から触察することができる。				
第9回	肩関節周囲筋群の起始停止走行および層について理解し、体表から触察することができる。				
第10回	前腕骨と手の骨の形態を想起し、体表からランドマークを触知することができる。				
第11回	上腕筋群の起始停止走行および層について理解し、体表から触察することができる。				
第12回	前腕・手指筋群の起始停止走行および層について理解し、体表から触察することができる。				
第13回	頸部筋・脊柱起立筋の起始停止走行および層について理解し、体表から触察することができる。				
第14回	胸部・腹部周囲筋群の起始停止走行および層について理解し、体表から触察することができる。				
第15回	胸部・腹部周囲筋群の起始停止走行および層について理解し、体表から触察することができる。				

学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	生体力学
代表講師	坂 崎 浩 一 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義・実験	単位数	2	学期・回数	前期：15回 (30時間)
授業概要	関節運動や姿勢・動作を速度・加速度・モーメント・床反力・パワーなどの力学的視点から分析し理解する。毎回の授業は、予習としての事前課題、講義及び実験、復習としての課題確認シートとノート提出をもって進める。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テコの考え方をもとに、関節運動を説明できる。</li> <li>・ひとの動きを、関節モーメント、床反力等の視点から説明できる。</li> </ul>				
成績評価の方法と基準	課題成績ノート提出状況 (1割)、中間試験 (4割)、前期試験 (5割)				
テキスト・教材等	基礎バイオメカニクス (医歯薬出版) 基礎運動学 (医歯薬出版)				
回数	授 業 内 容				
第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・力学の基礎と運動</li> <li>速度、加速度の理解、ベクトルについて理解する。</li> </ul>				
第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・力の合成と分解</li> <li>斜面台における加重量、車いす介助の際の力の分解について理解する。</li> </ul>				
第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生体におけるテコ</li> <li>関節運動における第1のテコについて、体幹の安定性と脊柱起立筋の作用から理解する。</li> </ul>				
第4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生体におけるテコ</li> <li>関節運動における第2のテコについて、つま先立ち動作と下腿三頭筋の作用から理解する。</li> </ul>				
第5回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重心の求め方</li> <li>第2のテコを利用しての人の重心位置を測定する (実験)。</li> </ul>				
第6回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生体におけるテコ</li> <li>関節運動における第3のテコについて、肘の屈曲と上腕二頭筋の作用から理解する。</li> </ul>				
第7回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間試験①</li> <li>・重心の求め方</li> <li>複数の重心の合成について理解する。</li> </ul>				
第8回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重心の速度・加速度</li> <li>立ちしゃがみ動作における、重心の速度、加速度について理解する (実験)。</li> </ul>				
第9回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・床反力と重心加速度</li> <li>立ちしゃがみ動作における床反力と重心の動きについて確認する (実験)。</li> </ul>				
第10回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・床反力と重心加速度</li> <li>立ちしゃがみ動作における床反力と重心の動きについて理解する。</li> </ul>				
第11回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・床反力作用点</li> <li>COPと基底面、重心の位置の関係、筋活動の変化 (筋電図) について理解する (実験)。</li> </ul>				
第12回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間試験②</li> <li>・関節モーメントと筋活動</li> <li>関節運動における時計回りのモーメント、反時計回りのモーメントについて理解する。</li> </ul>				
第13回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関節モーメントのパワー</li> <li>仕事、仕事率について理解する。</li> <li>股関節・膝関節・足関節におけるパワーについて理解する。</li> </ul>				
第14回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生体力学のまとめ</li> </ul>				
第15回	試 験				



学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	病 理 学
代表講師	山 本 哲 郎 (元 熊本大学医学部長)				
授業方法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15回(30時間)
授業概要	疾病に見られる基本的な病態、すなわち、どのような原因で起こり(病因)、どのような変化を生じ(病変)、どのように推移し(経過)、最終的にどうなるのか(転帰)などを総論的に講義する。				
到達目標	医療従事者として必要な医学・医療について基礎的知識を修得し、説明できるようになる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	『わかりやすい病理学』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	病理学と病因：現在の医学・医療分野において、病理学のはたす役割と、さまざまな疾病の原因について講義する。				
第2回	代謝異常①：細胞・組織の変性・壊死・萎縮および代謝産物の異常沈着などの退行性病変や、糖尿病などの糖代謝異常について講義する。				
第3回	代謝異常②：肥満や動脈硬化などの脂質代謝異常、低蛋白質血症や痛風などの蛋白質や核酸の代謝異常について講義する。				
第4回	循環障害①：虚血と梗塞、充血とうっ血、局所的な側副循環と肝硬変に伴う全身性側副循環、出血と出血傾向について講義する。				
第5回	循環障害②：血栓症と塞栓症およびDIC、全身性循環不全であるショックと浮腫について講義する。				
第6回	進行性病変：創傷治癒および骨折の治癒過程の病理学的変化を講義し、肉芽形成の重要性について理解させる。				
第7回	炎症①：炎症の原因、滲出と増殖などの基本的な病理組織学的変化およびそこに誘導される様々な化学伝達物質について講義する。				
第8回	炎症②：肺結核症や肝炎および消化管の炎症などの代表的な炎症性疾患について講義する。また、アレルギー疾患や自己免疫疾患などの理解に必要な免疫のメカニズムについて理解させる。				
第9回	免疫異常：I型～V型のアレルギー疾患や慢性関節リウマチなどの自己免疫疾患及び腫瘍性免疫異常疾患について講義する。				
第10回	感染症：病原微生物の定着と発症、宿主反応、感染の経過および日和見感染や院内感染などについて講義し、疾病の病因として重要な感染症の基礎について理解させる。				
第11回	腫瘍①：腫瘍の肉眼的特徴および組織学的特徴、良性腫瘍と悪性腫瘍の違いについて講義する。				
第12回	腫瘍②：腫瘍の浸潤転移の様式、宿主との関係、疫学的分野について講義する。				
第13回	腫瘍③：腫瘍の発生の原因と仕組み、癌遺伝子と癌抑制遺伝子、腫瘍の分類について講義する。				
第14回	先天異常：遺伝子異常、染色体異常、妊娠初期の胎芽期の異常および胎児期の異常に伴う先天性疾患について、講義する。				
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	神経内科学Ⅱ
代表講師	池田 耕 治 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15回 (30時間)
授業概要	脳神経内科学の代表的疾患を理解する。				
到達目標	国家試験合格レベルを目標とする。				
成績評価の方法と基準	授業毎に形成的評価を実施 ※筆記試験は実施しない				
テキスト・教材等	テキスト：『リハビリテーションのための神経内科学の学び方 (はじめての講義)』 『病気がみえる (vol.7) 脳・神経』 教材等：配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	脳血管障害：脳卒中の分類、診断、治療について理解し、説明できる。				池田耕治
第2回	認知症：アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症の違い、及び診断と治療を理解し、説明できる。				〃
第3回	脳腫瘍、頭部外傷：頭蓋内圧亢進症状との関連及び診断と治療を理解し、説明できる。				〃
第4回	錐体外路系疾患：パーキンソン病、パーキンソニズム、不随意運動の診断と治療を理解し、説明できる。				〃
第5回	運動ニューロン疾患：筋萎縮性側索硬化症 (ALS)、進行性球麻痺 (PBP)				〃
第6回	脊髄小脳変性症：多系統萎縮症 (MSA)、遺伝性・非遺伝性疾患の診断と治療を理解し、説明できる。				〃
第7回	脱髄性疾患：多発性硬化症 (MS)、急性散在性脳脊髄炎 (ADEM) の診断と治療を理解し、説明できる。				〃
第8回	感染性疾患：臨床的特徴、髄液検査を理解し、説明できる。髄膜炎等の診断と治療を理解し、説明できる。				〃
第9回	脊椎、脊髄疾患：変形性脊椎症、椎間板ヘルニア、脊髄空洞症の診断と治療を理解し、説明できる。				〃
第10回	末梢神経障害 (neuropathy)：多発神経炎 (polyneuropathy)、ギランバレー症候群 (GBS)、シャルコー・マリー・トゥース病 (C. M. T)、単神経炎等の診断と治療を理解する。				〃
第11回	筋肉疾患 (myopathy)：筋ジストロフィー症、重症筋無力症 (MG)、多発筋炎 (PM)、皮膚筋炎 (DM/PM)、周期性四肢麻痺の診断と治療を理解し、説明できる。				〃
第12回	ビタミン欠乏性疾患：脚気、Wernicke 脳症、亜急性性連合変性症の診断と治療を理解し、説明できる。 外因性、中毒性神経疾患：重金属中毒、農薬中毒、医原性疾患の診断と治療を理解し、説明できる。				〃
第13回	内科疾患と神経障害：内分泌疾患と神経障害、呼吸器疾患と神経障害、糖尿病と神経障害、消化器疾患と神経障害の診断と治療を理解し、説明できる。				〃
第14回	Special Lecture (1) 臨床教授として講師を招聘予定				非常勤講師
第15回	Special Lecture (2) 臨床教授として講師を招聘予定				〃

学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	精神医学Ⅱ
代 表 講 師	医師：宮内 大介、精神保健福祉士：白石 耕平・杉本 篤史（所属：くまもと悠心病院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15回（30時間）
授 業 概 要	教科書、プリントを用いて講義を行い、問題演習にて講義のふりかえりを行う。				
到 達 目 標	精神保健、支援の仕組みの理解				
成績評価の方法と基準	筆記試験				
テキスト・教材等	『《系統看護学講座 別巻》精神保健福祉』、『《標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野》精神医学』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	精神保健総論				宮内大介
第2回	ライフサイクルと精神保健				〃
第3回	精神医療の歴史				杉本篤史
第4回	精神保健福祉に関する法律				白石耕平
第5回	こころのケアと治療（ケアマネジメント、チームアプローチ）				杉本篤史
第6回	精神保健福祉の変遷と動向				白石耕平
第7回	精神障害者の在宅支援				杉本篤史
第8回	特定の状況に対する精神保健福祉（貧困、虐待）				白石耕平
第9回	地域生活支援の展開				杉本篤史
第10回	特定の状況に対する精神保健福祉（依存症）				白石耕平
第11回	認知症の支援について				杉本篤史
第12回	高齢者の医療、福祉、介護について①				白石耕平
第13回	高齢者の医療、福祉、介護について②				〃
第14回	まとめ				宮内大介
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	臨床心理学
代表講師	古 関 奈穂美 (臨床心理士)				
授業方法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15回 (30時間)
授業概要	本講義では、まず臨床心理学の歴史を概観し、臨床心理学の発展に大きな貢献を果たしてきた主な理論について紹介する。さらに、近年ますます増加しているところの問題へのアプローチとしての「心理療法」および「心理アセスメント」について学習し、他者理解・援助の前提となる「自己理解」を深めるための話題や事例を取り上げる。				
到達目標	臨床心理学の発展の歴史について概観する 臨床心理学の主要理論および心理療法について理解する 数種類の心理検査を体験し、結果について考察する				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (70%)、平常点 (課題の提出および内容的確さ、参加態度) (30%)				
テキスト・教材等	『リハベーシック 心理学・臨床心理学』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	臨床心理学とは：臨床心理学の定義・歴史・実践領域				
第2回	心の問題：現代社会における心の問題の特徴				
第3回	臨床心理学の主要理論：精神分析理論 ① 心の構造・防衛機制				
第4回	" ② 精神分析的な心理療法				
第5回	" ③ 分析的心理学 (ユング)				
第6回	" 行動主義心理学 ① 行動主義の考え方・行動療法				
第7回	" ② 認知行動療法				
第8回	" 人間性心理学 欲求階層説 (マズロー)・来談者中心療法 (ロジャーズ)				
第9回	その他の理論・心理療法：ゲシュタルト心理学、家族療法、森田療法 他				
第10回	"				
第11回	心理アセスメント：アセスメントの目的と方法・心理検査の種類				
第12回	" : 心理検査による自己理解 質問紙法と投影法 (実習)				
第13回	" : " "				
第14回	" : " 結果のまとめと考察				
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	基礎臨床医学 I
代表講師	嶋津 さゆり (所属：熊本リハビリテーション病院) 加藤 孝 則 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30時間)
授業概要	〈嶋津〉 高齢社会の日本では、元気な高齢者作るために機能訓練と栄養管理は重要です。リハビリテーションと栄養管理は同時に考える必要があります。栄養の重要性を説明します。 〈加藤〉 疾病や外傷を防ぐという予防の重要性が示されており、理学療法士も予防の面での関わりが求められている。予防理学療法に通じる疾病予防や健康管理のあり方について学ぶ。				
到達目標	〈嶋津〉 対象者の栄養状態を確認しながら機能訓練を行うセラピストになる。 〈加藤〉 予防医学について理解し、理学療法士に必要な疾病予防や健康管理に対する基礎的な知識を習得する。 〈救急〉 予救急救命の基礎として、赤十字ベーシックライフサポーターの検定に合格すること。				
成績評価の方法と基準	栄養学：授業内にて課題を提出することでその課題内容にて評価する。 予防の基礎：筆記試験 100% 救急救命の基礎：資格取得をもって評価とする。				
テキスト・教材等	〈嶋津〉『リハベーシック 生化学・栄養学』 配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	オリエンテーション、管理栄養について				嶋津さゆり
第2回	栄養の基礎 (生化学・代謝等)				〃
第3回	栄養アクセスについて (経腸栄養・静脈栄養)				〃
第4回	病態別栄養法について				〃
第5回	リハビリテーション栄養について				〃
第6回	サルコペニア・フレイル・ロコモティブシンドロームについて				〃
第7回	嚥下調整食と食事介助と栄養のまとめ				〃
第8回	予防医学の概念とその役割について理解し、説明できる。				加藤孝則
第9回	一次予防 (生活習慣の改善、健康教育、予防接種など) について理解し、説明できる。				〃
第10回	二次予防 (早期発見、早期治療など) について理解し、説明できる。				〃
第11回	三次予防 (保健指導やリハビリテーションなど) について理解し、説明できる。				〃
第12回	救急救命の基礎①：心肺停止または呼吸停止に対する一次救命処置 (BLS) の概要				非常勤講師
第13回	救急救命の基礎②：手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AED (自動体外式除細動器) を用いた除細動などを救急救命の基礎演習①				〃
第14回	救急救命の基礎③：手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AED (自動体外式除細動器) を用いた除細動などを救急救命の基礎演習②				〃
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	基礎臨床医学Ⅱ
代表講師	馬場 祐之 (所属：熊本赤十字病院) 森 直樹 (所属：御幸病院)				
授業方法	講義	単位数	2	学期・回数	後期：15回(30時間)
授業概要	<p>〈馬場〉 各種画像診断の原理から実際の臨床画像について学び、臨床の場で遭遇する疾患と画像所見の関係について理解を深める。画像所見を理解する事は実際の理学療法プログラムを作成する上で重要であり、画像所見から得られた情報を他の医療スタッフと共有する事はコミュニケーションを円滑に行う上で必須である。</p> <p>〈森〉 適正な薬物治療に関わる基本部分を学習することを通じ、医療現場における薬剤師等との関わり方についても含めて講義する。</p>				
到達目標	<p>〈馬場〉 画像を構成する要素・原理について理解した上で、疾患毎の代表的な画像所見を解析し、病態を把握できる事を目標とする。</p> <p>〈森〉 ・代表的な薬の作用、副作用、体に入り出ていくまでに関する基礎的知識を習得する。 ・薬物治療が主体となる疾患についての薬物療法の基本的知識を習得する。</p>				
成績評価の方法と基準	〈馬場〉 paper test 〈森〉 筆記試験				
テキスト・教材等	<p>〈馬場〉『リハビリテーション医療に活かす画像のみかた 症例から学び障害を読み解く』 〈森〉『リハベーシック 薬理学・臨床薬理学』</p>				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	画像診断の原理 単純XP/CT/MRI/RI/US				馬場祐之
第2回	脳のCT 脳出血などの画像所見				〃
第3回	脳のMRI 脳梗塞などの画像所見				〃
第4回	脳血管障害以外の中中枢神経疾患・脳腫瘍など				〃
第5回	脊椎・脊髄の画像診断・脊椎転移・骨折など				〃
第6回	上肢疾患の画像診断 肩関節・肘関節・骨折				〃
第7回	下肢疾患の画像診断 大腿骨頸部骨折・膝関節・アキレス腱				〃
第8回	薬による病気の治療、役割、作用、副作用の仕組み、剤形について概説できる				森 直樹
第9回	薬の体内動態（吸収・分布・代謝・排泄）と相互作用について概説できる				〃
第10回	感染・炎症の制御と呼吸器の治療薬について理解できる				〃
第11回	疼痛の制御と治療薬、睡眠薬について理解できる				〃
第12回	循環器系の病態（高血圧・狭心症等）と薬剤について理解できる				〃
第13回	代謝性疾患（糖尿病・骨粗鬆症等）の治療薬について理解できる				〃
第14回	中枢神経系の病態（パーキンソン病等）と薬剤について理解できる				〃
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	臨床医学 I
代表講師	廣 田 昌 彦 (所属:長崎国際大学) 末 吉 博 之 (所属:熊本大学病院)				
授業方法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期:15回(30時間)
授業概要	(廣田) 外科的疾患の病態と診断、治療の理解 (末吉) 脳、神経の正常構造と疾患について				
到達目標	(廣田) 外科的疾患の病態と診断、治療の理解 (末吉) 卒後の理学療法、作業療法活動を行う為に、中枢神経系の特殊性を理解し、診療に役立つように脳神経疾患の臨床知識を習得する。				
成績評価の方法と基準	筆記試験				
テキスト・教材等	〈廣田〉『わかりやすい外科学』 〈末吉〉『病気がみえる (vol.7) 脳・神経』 (池田) 配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	外科学の歴史と進歩 (麻酔、感染、消毒)、基本外科手技				外科学 (廣田昌彦)
第2回	外科侵襲と生体反応、炎症、体液、栄養管理				〃
第3回	外科腫瘍学、内分泌外科、乳腺外科				〃
第4回	胸部外科 (肺、縦隔、心・血管外科)				〃
第5回	消化器外科 (上部消化管)				〃
第6回	消化器外科 (下部消化管、腹膜疾患)				〃
第7回	消化器外科 (肝・胆・膵 外科)				〃
第8回	脳・神経の基礎1:神経系の構造と機能、症候				脳神経外科学 (末吉博之)
第9回	脳・神経の病態:脳動脈と血管障害				〃
第10回	脳・神経の基礎2:運動、感覚、自律神経				〃
第11回	神経・筋の異常1:脱髄疾患、神経変性疾患、認知症、てんかん など				〃
第12回	神経・筋の異常2:先天奇形、脳腫瘍、頭部外傷 など				〃
第13回	脳神経(1) 脳神経の構造と機能について理解し、それらの関係性について説明できる。				脳神経外科学 (池田耕治)
第14回	脳神経(2) 脳神経の障害とその病態について理解し、説明できる。				〃
第15回	試 験				



学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	臨床医学Ⅱ
代表講師	岩谷典学(所属:熊本県総合保健センター) 次山航平(所属:熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義	単位数	2	学期・回数	前期:15回(30時間)
授業概要	(岩谷)小児の特徴は常に成長・発達していることである。出生から思春期にわたる各時期の身体の形態や機能の特徴、小児特有の疾患について学び、また疾患と障害との関連性について理解し、小児リハビリテーションに活かすことができる。 (次山)理学療法士PT、作業療法士OTとして、患者さんへの医学的リハビリテーションを的確に実施するために、必要な基礎知識としての内科学、老年学を総合的視点から理解する。				
到達目標	(岩谷)小児の特徴は常に成長・発達していることである。出生から思春期にわたる各時期の身体の形態や機能の特徴、小児特有の疾患について学び、また疾患と障害との関連性について理解し、小児リハビリテーションに活かすことができる。 (次山)理学療法士PT、作業療法士OTとして、患者さんへの医学的リハビリテーションを的確に実施するために、必要な基礎知識としての内科学、老年学を総合的視点から理解する。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	(岩谷)「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学(第6版)」、配布資料 (次山)『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学』、『《標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野》老年学』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	内科学総論:内科学について、内科学を学ぶ意義 代謝性疾患:代謝調節の仕組み、糖尿病の分類と症状、PT・OTとの関連事項				一般内科学 (坂崎浩一)
第2回	循環器、血液・造血管疾患: 解剖、生理、症候、病態、疾患各論、心臓・腎リハビリテーション、PT・OTとの 関連事項 形態、生理、症候、病態、疾患各論、PT・OTとの関連事項				淵野浩二
第3回	呼吸器疾患、感染症: 解剖、生理、症候、病態、疾患各論、呼吸リハビリテーション、PT・OTとの関連 事項 院内感染、予防、PT・OTとの関連事項				加藤孝則
第4回	消化管、肝・胆・膵疾患:解剖、生理、症候、病態、疾患各論、PT・OTとの関連事 項				池田耕治
第5回	内分泌、アレルギー・膠原病・免疫不全症: 仕組み、生理、症候、病態、疾患各論、PT・OTとの関連事項 免疫系の働き、症候、疾患各論、PT・OTとの関連事項				高木勝隆
第6回	老年学総論と高齢者へのアプローチ:加齢と老化、高齢者との接し方、評価(機能、栄 養状態、臨床検査値)と薬物療法 p1～pp96				池田裕輔
第7回	高齢者に特徴的な症候と老年症候群 pp99～pp127				〃
第8回	高齢者の疾患について 1) 13 循環器疾患～21 泌尿器疾患 pp128～pp246(内科学での復習と相違点) 2) 22 骨粗鬆症と運動器疾患～29 東洋医学 pp247～pp319(要点のみ)				次山航平
第9回	高齢者をとりまく環境とリハビリテーションについて pp323～394				〃
第10回	小児の成長と発達の特徴と評価法、小児期に特徴的な生理機能				小児科学 (岩谷典学)
第11回	新生児および周産期疾患:低出生体重児、新生児仮死、新生児の呼吸障害など				〃
第12回	遺伝子・染色体異常、先天代謝異常症など				〃
第13回	中枢神経疾患、けいれん性疾患、運動器疾患、発達障がい、重症心身障がい児など				〃
第14回	その他の主な小児の疾患:感染性疾患、アレルギー・自己免疫疾患、内分泌・代謝疾患 など				〃
第15回	試 験				



学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	臨床医学Ⅲ
代表講師	崎山 仁 (所属：健軍熊本泌尿器科) 冬田 昌利 (所属：冬田循環器科内科医院) 西田 健朗 (所属：熊本中央病院) 小松 修治 (所属：熊本大学病院)				
授業方法	講義	単位数	2	学期・回数	前期：15回 (30時間)
授業概要	(崎山) 泌尿器科分野における基礎知識 (冬田) 循環器疾患の診断と治療について学び理解する事。 ( ) 呼吸のメカニズムを理解する。呼吸器疾患の病態を理解する。 (西田) 糖代謝及び糖尿病の病態、食事・運動療法、薬物療法に加え、臨床的な知識を一括することで、糖尿病に対する総合的な知識を習得する。また、その他の代謝疾患や内分泌疾患についても、概念や特徴など、医療従事者として最低限知っておくべき知識を習得する。 (小松) 患者の身体的・精神的苦しみを理解し、患者の満足が得られるように治療するために、痛みについて学ぶ。				
到達目標	(崎山) 尿路および男性生殖器疾患の理解 (冬田) 循環器疾患の因子、原因を理解し、予防と治療について学ぶ。 ( ) 呼吸のメカニズムを理解する。呼吸器疾患の病態を理解する。 (西田) 糖尿病に関する知識はもとより、薬物療法、運動療法および栄養療法を学ぶことで、糖尿病のチーム医療における理学療法士の役割を認識し、医師の指示の下で糖尿病患者に療養指導を行うことについて理解する。また、その他の代謝疾患や内分泌疾患についても、概念や特徴など、基本的な点を理解する。 (小松) ・痛みの定義が理解できる、痛みの多面性について説明できる。・痛みの伝導路が説明できる。・認知行動療法に基づくペインリハビリテーションが理解できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験				
テキスト・教材等	(崎山) 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 (8) 腎・泌尿器』 (冬田) 系統看護学講座、専門分野Ⅱ、循環器 成人看護学③ (西田) 『糖尿病治療ガイド 2022-2023』 (小松) 痛みの教育コンテンツー理学療法士・作業療法士用 (配布資料) ( ) 『標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野』内科学』、配布資料				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	尿路及び男性生殖器の構造と生理				泌尿器科学 (崎山 仁)
第2回	腎・泌尿器系疾患 (感染症・結石・腫瘍の病態・排尿障害)				〃
第3回	循環器の解剖と生理、心臓の構造と機能。体循環と肺循環 循環機能の見方：血液と脈拍、心拍出量末梢血管抵抗、心拍出量と心係数				循環器科学 (冬田昌利)
第4回	心不全 急性心不全の診断と治療、慢性心不全の原因と治療、危険な不整脈、主な弁疾患				〃
第5回	高血圧症の診断と治療、合併症と予後、左室不全、左室肥大 腎不全、脳出血、脳梗塞、眼底出血、憎悪因子；糖尿病、高脂血症、肥満、家族歴				〃
第6回	狭心症の分類と診断、冠動脈硬化症、労作狭心症 冠動脈造影法、バルーン療法、ステント、アテロームカッター、ロータブレッター				〃
第7回	心筋梗塞の診断と治療：PTCR、PTCA、CABG。急性冠症候群 冠痙攣性狭心症 合併症と予後；心原性ショック、心臓破裂				〃
第8回	代謝疾患：代謝疾患の考え方、糖尿病について (病態生理、診断、検査、疫学、分類・成因、合併症、治療)				代謝学 (西田健朗)
第9回	代謝疾患：低血糖症、その他の代謝疾患について 内分泌疾患：内分泌疾患について (病態生理、治療)				〃
第10回	肺の解剖と生理、呼吸器疾患の症候と病態生理				呼吸器科学 ( )
第11回	臨床検査所見、呼吸器疾患各論①				〃
第12回	呼吸器疾患各論②				〃
第13回	1. 「痛み」の基礎 2. 「痛み」のリハビリテーション評価				疼痛管理学 (小松修治)
第14回	3. 「痛み」のリハビリテーションの実際 4. 「痛み」の治療法				〃
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	整形外科学 I
代表講師	中 根 惟 武 (所属：熊本機能病院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15回 (30時間)
授 業 概 要	整形外科の基礎的知識を修得する。 臨床学習を目的とする。 臨床の場において役に立つ疾患の基礎を学ぶ。				
到 達 目 標	患者に疾患の説明ができるようになる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	『標準整形外科学』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	骨関節総論：骨の役割、骨の分類、骨の構造、栄養、成長、関節の動き（拘縮、強直）など				中根惟武
第 2 回	股関節各論：小児股関節疾患（先股脱、ペルテス、すべり症）				〃
第 3 回	股関節各論：変形性股関節症、大腿骨頭壊死				〃
第 4 回	末梢神経：腕神経叢麻痺				中島英親
第 5 回	外傷：再接着				〃
第 6 回	肘、上腕、前腕、手根骨：肘周辺骨折、上腕骨骨折、前腕骨折、手根骨骨折				〃
第 7 回	手関節、手指、スポーツ外傷：キーンバック病、CM関節症、野球肘、テニス肘				〃
第 8 回	手指：Swan neck deformity, mallet finger, RSD				〃
第 9 回	末梢神経：正中、尺骨、橈骨神経				高井聖子
第10回	肩：rotator cuff, codman rhythm				〃
第11回	膝関節各論：膝内障				高井浩和
第12回	膝関節各論：変形性膝関節症、シャルコー関節				〃
第13回	骨折総論：骨折の分類、骨癒合の経過、骨折の治療など				〃
第14回	骨折総論：小児骨折、老人骨折				〃
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	整形外科学Ⅱ
代表講師	宮本和彦(所属:熊本赤十字病院) 福島芳子(所属:熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義	単位数	2	学期・回数	後期:15回(30時間)
授業概要	整形外科の基礎的知識を修得する。 臨床学習を目的とする。 臨床の場において役に立ち、患者に疾患の説明ができるように疾患の基礎を学ぶ。				
到達目標	患者に疾患の説明ができるようになる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	『標準整形外科学』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	脊 椎 頸部:斜径・頸部椎間板ヘルニア・OPLL・リウマチ性脊椎炎				宮本和彦
第2回	脊 椎 胸部:胸郭疾患・側弯症				〃
第3回	脊 椎 腰部:分離すべり症・変形性脊椎症・脊柱管狭窄、強直性脊椎炎				〃
第4回	脊 椎 腰部:椎間板ヘルニア・骨粗鬆症・脊椎脊髄腫瘍				〃
第5回	脊 椎・脊 髄:脊椎損傷・脊髄損傷・むちうち損傷				〃
第6回	軟部組織・骨・関節の感染症を学習する				〃
第7回	関節リウマチやその類縁疾患について学習する				〃
第8回	代表的な代謝性疾患について学習する				〃
第9回	腫瘍性病変(骨軟部腫瘍を中心に)について学習する				〃
第10回	上下肢切断の疫学、切断部位の特徴、切断術術後管理と義足装着時期及び合併症について理解し、説明できる。				福島芳子
第11回	足部変形、絞扼性神経障害、骨端症、無腐性壊死の病態を理解し、説明ができる。				高田理恵子
第12回	外傷後足部障害、スポーツ外傷・障害について病態を理解し、説明ができる。				〃
第13回	変形性疾患、痛風、偽痛風、神経病性関節症、血友病性関節症、滑液包炎、異所性骨化、四肢循環障害、骨壊死について病態を理解し、説明できる。				加藤孝則
第14回	骨形成不全症、手及び足の先天異常について病態を理解し、説明できる。				〃
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	科目名	社会福祉学
代 表 講 師	井 上 ゆかり (所属：熊本学園大学 水俣学研究センター)				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：9回 (18時間)
授 業 概 要	社会福祉とは、社会的・生活的困難を抱える人が幸福に生きる権利をその人とともに作り出すことをいう。人間は人生の中で様々な問題を抱えて生きている。そうした1人の人間の生存を支えるには、その人らしい生活を確保し高めることが求められる。本授業では、様々な困難を抱えた人の主体性・人格的価値を尊重し、ウェルビーイングを高めること (enhance wellbeing) を「社会」の仕組みとして確保しなければならないことを学ぶ。				
到 達 目 標	社会福祉の基礎となる内容を理解し、生活の中にある課題を捉える視点を持って、社会の中の様々な課題を見つめ、援助者としてどのような方法や課題解決の営みがあるかを理解する力を身につける。				
成績評価の方法と基準	授業中のレポート：20%、定期試験：80%				
テキスト・教材等	その都度、資料教材プリントを配布				
回 数					
第1回	オリエンテーション 障害者差別禁止法：対象の理解とはなにか				
第2回	自立と自己決定に向けた支援 一映画 I am Sam を通して一				
第3回	最善の利益との違い 一映画 I am Sam を通して一				
第4回	地域社会から社会福祉へのアプローチ (1)：環境				
第5回	地域社会から社会福祉へのアプローチ (2)：労働災害				
第6回	地域社会から社会福祉へのアプローチ (3)：自然災害				
第7回	低所得者と公的扶助ーコロナ禍での社会的排除と社会福祉的課題				
第8回	所得補償と年金制度、そして介護保険制度				
第9回	試 験				

学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	基礎理学療法学	科目名	臨床運動学
代表講師	明瀬敬二(所属:熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義	単位数	2	学期・回数	前・後期:30回(60時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法業務の経験を持つ教員が、基本的な身体構造と正常動作と異常動作について実技を踏まえながら講義を行う。				
授業概要	人体における骨・関節・筋・神経などの基本的構造や機能について、正常動作と臨床的な異常動作の違いを実技、動画視聴等を交えて進める。各授業毎に確認テストを実施する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動、動作の成り立ちを理解し、説明することができる。</li> <li>・運動や動作の中から異常な要素を観察することができる。</li> </ul>				
成績評価の方法と基準	筆記試験(100%)				
テキスト・教材等	『身体運動学』、『基礎運動学』、『標準整形外科学』、『プロメテウス解剖学アトラス』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	骨盤・股関節の構造(骨・関節・靭帯・筋・神経など)について理解することができる。				明瀬敬二
第2回	骨盤・股関節の運動と機能について理解することができる。				〃
第3回	骨盤・股関節の運動と機能について理解することができる。				〃
第4回	骨盤・股関節の障害学について理解することができる。				〃
第5回	膝関節の構造(骨・関節・靭帯・筋・神経など)について理解することができる。				〃
第6回	膝関節の運動と機能について理解することができる。				〃
第7回	膝関節の運動と機能について理解することができる。				〃
第8回	膝関節の障害学について理解することができる。				〃
第9回	足関節の運動と機能について理解することができる。				〃
第10回	足関節の障害学について理解することができる。				〃
第11回	肩甲帯の構造(骨・関節・靭帯・筋・神経など)について理解することができる。				福島芳子
第12回	肩甲帯の構造(骨・関節・靭帯・筋・神経など)について理解することができる。				〃
第13回	肩甲帯の運動と機能について理解することができる。				〃
第14回	肩甲帯の障害と疾患について理解することができる。				〃
第15回	試 験				
第16回	肘関節・前腕の構造(骨・関節・靭帯・筋・神経など)について理解することができる。				福島芳子
第17回	肘関節・前腕の運動と機能について理解することができる。				〃
第18回	肘関節・前腕の障害と疾患について理解することができる。				〃
第19回	手関節・手の構造(骨・関節・靭帯・筋・神経など)について理解することができる。				〃
第20回	手関節・手の運動と機能について理解することができる。				〃
第21回	手関節・手の障害と疾患について理解することができる。				〃
第22回	脊柱の構造(骨・関節・靭帯・筋・神経など)について理解することができる。				明瀬敬二
第23回	脊柱の運動と機能について理解することができる。				〃
第24回	脊柱の障害学について理解することができる。				〃
第25回	正常姿勢と異常姿勢の診方、姿勢制御などの仕組みについて理解することができる。				〃
第26回	歩行周期と各相におけるそれぞれの役割と特徴について理解することができる。				〃
第27回	歩行の各相の運動学と各関節の課題について理解できる。				〃
第28回	異常歩行・病的歩行などの原因と影響について理解することができる。				〃
第29回	異常歩行の体験と歩行分析演習				〃
第30回	試 験				

学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	基礎理学療法学	科目名	発達小児科学
代表講師	山内 一 正 (所属：児童発達支援・放課後等デイサービス STELLA)				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	後期：15回 (30時間)
授業概要	正常発達 (主に胎児期～幼児期) について学習し、運動的な要素を模倣することができる。				
到達目標	正常発達について学習し、誕生から歩行獲得までの運動発達を模倣することができる。発達に関わる反射・反応を理解し、正常発達との関連性を結び付け説明することができる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	『シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	発達の定義や発達の流れについて説明することができる。				
第2回	運動発達理論・姿勢制御理論について理解し、説明することができる。 子どもが発達の過程で世界をどのようにとらえているか理解し、説明することができる。				
第3回	胎児期～新生児期にかけて循環・神経系の発達について理解し、説明することができる。				
第4回	反射・反応の意義を理解し、原始反射、立ち直り反応、平衡反応について説明することができる。				
第5回	原始反射、立ち直り反応、平衡反応に関する検査手技・反応様式・中枢・運動発達との関連性について説明や模倣をすることができる。				
第6回	原始反射、立ち直り反応、平衡反応に関する検査手技・反応様式・中枢・運動発達との関連性について説明や模倣をすることができる。				
第7回	正常発達の身体的変化 (量的) について理解し、説明することができる。				
第8回	誕生から歩行までの運動発達について説明することができる。				
第9回	背臥位の発達についてメカニズムを基に説明と模倣をすることができる。				
第10回	座位の発達についてメカニズムを基に説明と模倣をすることができる。				
第11回	腹臥位の発達についてメカニズムを基に説明と模倣をすることができる。				
第12回	歩行獲得以降の発達についてメカニズムを基に説明と模倣をすることができる。				
第13回	発達検査 (遠城寺式発達検査・デンバー発達検査) を行うことができる。				
第14回	発達検査 (遠城寺式発達検査・デンバー発達検査) を行うことができる。				
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	理学療法評価学	科目名	理学療法評価学Ⅱ
代表講師	福島 芳子 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義・実技	単位数	1	学期・回数	前期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法業務に携わった経験を持つ教員が、筋解剖の基礎知識から検査の目的、実施上の注意事項および筋力評価の方法について指導する。				
授業概要	徒手筋力テストの基本的注意事項、手順の講義後、自己によるテキストおよび視覚教材による主体的学習を中心とする。毎授業時に到達度と理解度をチェックし、単元終了時は実技習熟度テストを実施する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疾患における筋力評価の目的を理解し、適切な評価が実施できる。</li> <li>・固定の意味、抵抗の加え方を考え、代償動作を抑止しながら正確な検査技術を習得できる。</li> <li>・分かりやすく簡潔な説明ができると共に、リスクに注意しながら対象者に実施することができる。</li> <li>・肢位別での検査実施が適切な時間で実施できる。</li> <li>・筋の起始・停止、主動作・神経支配に関する知識を深め、評価結果を適切に解釈することができる。</li> </ul>				
成績評価の方法と基準	前期：形成的評価 (30%)、筆記試験 (70%)				
テキスト・教材等	『理学療法評価学』『新・徒手筋力検査法』『プロメテウス解剖学アトラス』、配布資料				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	MMTの基本的原理、目的、実施手順、注意事項 (固定の重要性、抵抗の加え方、代償運動の防止) について				福島芳子 次山航平
第2回	股関節・膝関節・足部の段階 543				〃
第3回	股関節・膝関節・足部の段階 543				〃
第4回	股関節・膝関節・足部の段階 543 実技習熟度テスト				〃
第5回	股関節・膝関節・足部の段階 210				〃
第6回	股関節・膝関節・足部の段階 210 実技習熟度テスト				〃
第7回	肩関節・肘関節・前腕・手関節の段階 543				〃
第8回	肩関節・肘関節・前腕・手関節の段階 543 実技習熟度テスト				〃
第9回	肩関節・肘関節・前腕・手関節の段階 210				〃
第10回	肩関節・肘関節・前腕・手関節の段階 210 実技習熟度テスト				〃
第11回	手指足趾、頸部・体幹				〃
第12回	手指足趾、頸部・体幹実技習熟度テスト				〃
第13回	脳神経検査 (外眼筋、顔面神経)				〃
第14回	脳神経検査 (咀嚼筋、舌筋、口蓋筋、咽頭筋、喉頭筋)				〃
第15回	試 験				



学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	理学療法評価学	科目名	理学療法評価学Ⅲ
代表講師	坂本 勝 哉 (所属：こども療育研究室 Lulu) 池田 耕 治 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	前期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士に必要な臨床能力を身につけるために、学内において臨床経験豊富な専門力を持つ専任講師の指導のもと、疾患の病態、障害像、評価及びプログラム立案について学習する。				
授業概要	基本的検査及び測定についての意義、目的及び方法について授業する。				
到達目標	基本的検査及び測定における準備物、検査・測定方法、手順を理解し実践できる。 評価により得られたデータの意味を病態解釈に反映し、訓練プログラムの構築につなげることができる。				
成績評価の方法と基準	第1～12講義：筆記試験 (100%) ※第15回が試験 第13～14講義：授業毎にプレ及びポストテスト (診断的・形成的評価) を実施する。 ※筆記試験は実施しない。				
テキスト・教材等					
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	反射や筋緊張検査の目的と意義、検査方法と手順について理解し説明できる。				坂本 勝哉
第2回	反射や筋緊張検査の実際および記載方法について理解し実施できる。				〃
第3回	感覚とは何かを理解し説明できる。				〃
第4回	感覚検査の目的と意義を理解し説明できる。				〃
第5回	感覚検査の実際及び記載方法について理解し実施できる。				〃
第6回	脳神経検査の実際及び記載方法について理解し実施できる。				〃
第7回	脳卒中片麻痺機能検査の目的と意義を理解し実施できる。				〃
第8回	脳卒中片麻痺機能検査の実際 (Brunnstrom-test 中心) 及び記載方法について理解し実施できる。				〃
第9回	協調性検査の目的と意義を理解し説明できる。				〃
第10回	協調性検査の実際及び記載方法について理解し実施できる。				〃
第11回	平衡機能検査の目的と意義を理解し説明できる。				〃
第12回	平衡機能検査の実際及び記載方法について理解し実施できる。				〃
第13回	脳神経 (1)・脳神経の構造について理解し説明できる。				池田 耕治
第14回	脳神経 (2)・脳神経の検査項目について理解し実践できる。				〃
第15回	試 験				



学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	理学療法評価学	科目名	評価学演習
代 表 講 師	次 山 航 平 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・実技	単位数	1	学期・回数	前期 (30 時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	現役の理学療法士が病院・施設等の臨床現場において、臨床参加型実習にて、理学療法評価の一部の検査測定項目について教育を行う。				
授 業 概 要	学内で学習した理学療法評価を実際の患者様に対して実施することができる。				
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 検査・測定に関する手技の習得および向上を図る。</li> <li>2. 各種疾患に対し検査・測定を行い、正常との違いを学びとる。</li> <li>3. 理学療法学における各検査・測定の意義について理解を深める。</li> <li>4. 評価に関する一連の流れを学ぶ。</li> <li>5. 対象患者並びに他の医療従事者との人間関係の取り方を学ぶ。</li> <li>6. 理学療法士としての基本的な態度を習得し、専門職としての資質の向上を図る。</li> </ol>				
成績評価の方法と基準	OSCE (客観的臨床能力試験) (70%)、ポートフォリオ評価 (30%)				
テキスト・教材等	臨床実習の手引き・実習実施要項				
期 間	授 業 内 容				担当講師
1 週間	<p>期間：2023年9月25日(月)～9月28日(木) (学外実習 2023年9月25日(月)～9月27日(水))</p> <p>実施内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法部門の見学</li> <li>2. 対象者(患者)からの情報収集</li> <li>3. 検査測定技法に関する実習</li> <li>4. その他(カンファレンス・勉強会等への参加)</li> </ol>				専任講師 および 臨床実習 指導者

学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	運動療法学Ⅱ（中枢）
代表講師	池田 耕 治（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前・後期：30回（60時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士として、病院及び施設等の業務に関わった教員が、理学療法士に必要な臨床能力を身につけるために、理学療法士の視点からの患者の病態理解、障害像、評価及び運動療法（プログラム立案）について指導する。				
授業概要	運動療法学Ⅱ（中枢）では、解剖学、生理学及び運動学で学んだ内容を発展させ、中枢神経系に発生する主要な疾患である脳血管障害、神経難病（Parkinson 病・運動失調症）及び末梢神経損傷の概要、症状、評価、治療及び予後などについて解説する。これらの疾患等はリハビリテーション対象となるものが多く、国家試験においても必須科目である。最終的には、「臨床家」による臨床推論（思考）とその実践について学習する。				
到達目標	1) 運動療法学に関連する医学用語の意味を理解し、診察所見や検査所見について、正常な状態と病的状態を区別することができる。 2) 主要な疾患について、その病態、疫学、症状、所見、治療、予後を理解し、説明できる。 3) 解剖学、生理学、運動学、公衆衛生学等で学んだ知識を運動療法学に関連づけることができる。 4) 国家試験における理学療法治療学分野の問題を解くことができる。				
成績評価の方法と基準	授業毎に形成的評価を実施 ※筆記試験は実施しない				
テキスト・教材等	テキスト：『<標準理学療法学 専門分野> 神経理学療法学』 教材等：配布資料				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	・オリエンテーション ・脳血管障害の基礎（1） 錐体路について理解し、説明できる。 脳血管障害の分類について理解し、説明できる				池田 耕治
第2回	・脳血管障害の基礎（1） 錐体路について理解し、説明できる。 脳血管障害の分類について理解し、説明できる。				〃
第3回	・脳血管障害の基礎（2） 運動障害の特徴（陽性徴候及び陰性徴候）について理解し、説明できる。 <演習>脳血管障害患者の歩行について模倣できる				〃
第4回	・脳血管障害の基礎（3） 運動障害の評価（Brunnstrom stage 及び Modified Ashworth Scale）について理解し、説明できる。 <演習>脳血管障害患者の歩行について模倣できる。				〃
第5回	・脳血管障害の基礎（4） 脳血管障害における意識障害の概要について理解し、説明できる。 <演習>脳血管障害患者の歩行について模倣できる。				〃
第6回	・脳血管障害の基礎（5） 脳血管障害における感覚障害の概要について理解し、説明できる。 <演習>感覚障害患者の評価について実施する。				〃
第7回	・脳血管障害の基礎（6） 高次脳機能障害（失語、失行及び失認）の概要について理解し、説明できる。 <演習>高次脳機能障害の評価について実施する。				〃
第8回	・脳血管障害の応用（1） 上肢の異常な運動パターンについて理解し、説明できる。 <演習>患者の異常な肢位を模倣できる。				〃
第9回	・脳血管障害の応用（2） 異常な運動パターンについて理解し、説明できる。 <演習>良肢位保持、寝返り、起き上がり等の床上動作を実施する。				〃
第10回	・脳血管障害の応用（2） 下肢の異常な運動パターンについて理解し、説明できる。 <演習>片膝立ち、両膝立ち位を実施する。				〃
第11回	・脳血管障害の応用（3） 下肢の異常な運動パターンについて理解し、説明できる。 <演習>立位、歩行における動作指導を実施する。				〃
第12回	・脳血管障害の応用（4） 日常生活活動（ADL）及び評価について理解し、説明できる。 <演習>立位、歩行における動作指導を実施する。				〃

回数	授業内容	担当講師
第13回	・Special Lecture (1) 症例検討 上肢に問題をかかえる患者 (深部感覚障害) に対する運動療法を思考する。 ＜演習＞臨床家の臨床推論 (思考) と実践を学ぶ。	非常勤講師
第14回	・Special Lecture (2) 症例検討 下肢に問題をかかえる患者 (深部感覚障害) に対する運動療法を思考する。 ＜演習＞臨床家の臨床推論 (思考) と実践を学ぶ。	〃
第15回	総括的評価 (前期授業のまとめ)	池田 耕治
第16回	・Parkinson 病 (1) 病態と障害像、4 大徴候の概要を理解し、説明できる。 Hohen-Yahr の分類の概要を理解し、説明できる	〃
第17回	・Parkinson 病 (2) 理学療法評価と運動療法の関係を理解し、説明できる。	〃
第18回	・Parkinson 病 (3) 理学療法評価と運動療法の関係を理解し、実施できる。	〃
第19回	・Parkinson 病 (4) 脳神経科学の知見から Parkinson 病を紐解き、解剖学及び生理学との関係を理解し、説明できる。	〃
第20回	・Special Lecture (1) 症例検討 歩行に問題をかかえる患者 (すくみ足) に対する運動療法を思考する。 ＜演習＞臨床家の臨床推論 (思考) と実践を学ぶ。	非常勤講師
第21回	・運動失調症 (1) 障害の病態や発生メカニズム等のつながりを理解し、説明できる (深部感覚性・小脳性・前庭性)。	池田 耕治
第22回	・運動失調症 (2) 理学療法評価と運動療法の関係を理解し、説明できる	〃
第23回	・運動失調症 (3) 理学療法評価と運動療法の関係を理解し、実施できる。	〃
第24回	・運動失調症 (4) 脳神経科学の知見から運動失調症を紐解き、解剖学及び生理学との関係を理解し、説明できる。	〃
第25回	・Special Lecture (2) 症例検討 ADL に問題をかかえる患者 (上肢の運動失調) に対する運動療法を思考する。 ＜演習＞臨床家の臨床推論 (思考) と実践を学ぶ。	非常勤講師
第26回	・末梢神経障害 (1) 末梢神経損傷の分類・診断について理解し、説明できる。	〃
第27回	・末梢神経障害 (2) 末梢神経損傷の評価について理解し、実施できる。	〃
第28回	・末梢神経障害 (3) 末梢神経損傷の治療法について理解し、説明できる。 末梢神経損傷のリハビリテーションについて理解し、実施できる。	〃
第29回	・Special Lecture (3) 症例検討 手指に問題をかかえる患者 (切断による再接着) に対する運動療法を思考する。 ＜演習＞臨床家の臨床推論 (思考) と実践を学ぶ。	〃
第30回	総括的評価 (後期授業のまとめ)	池田 耕治

学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	運動療法学Ⅳ（整形）
代表講師	高田理恵子（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講義・実技	単位数	2	学期・回数	前・後期：30回（60時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	運動器疾患に対する理学療法業務に携わった経験を持つ教員が担当する。 運動器疾患に対する理学療法を実技を交えながら講義を行う。				
授業概要	運動器疾患（整形外科分野）における病態の説明、保存療法・観血療法前後の患者に対する理学療法を学習する。 運動器疾患特有の評価方法（整形外科テスト等）は実技を通して学習する。 脊髄損傷の病態の説明、損傷レベル別にみた残存機能と基本動作獲得のための運動療法について学習する。				
到達目標	学習した内容をもとに、運動器疾患に対する適切な評価、運動療法、患者指導について説明、実施ができることを到達目標とする。 脊髄損傷の症状を説明でき、障害髄節の違いによる基本動作およびADLを説明できる。				
成績評価の方法と基準	形成的評価 30%、筆記試験 70%				
テキスト・教材等	「標準整形外科学」「整形外科術後理学療法プログラム」 「整形外科テストポケットマニュアル」「理学療法ハンドブック 第3巻」、配布資料				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	骨折の定義、分類、治癒過程合併症、整復・固定法が想起できる。				高田理恵子
第2回	骨折後の評価、理学療法を理解できる。				〃
第3回	骨折後の評価・理学療法の評価・理学療法を説明できる。（大腿骨近位部骨折を例に実施する）				〃
第4回	変形性股関節症の疾患概要、治療（保存療法・観血療法）、禁忌肢位が想起できる。				〃
第5回	変形性股関節症の理学療法が理解できる。				〃
第6回	変形性股関節症の理学療法を説明でき、患者に対するADL指導の具体的な内容を説明することができる。				〃
第7回	変形性膝関節症の疾患概要、治療（保存療法・観血療法）が想起できる。				〃
第8回	変形性膝関節症の理学療法が理解できる。				〃
第9回	変形性膝関節症の理学療法を説明でき、患者に対するADL指導の具体的な内容を説明することができる。				〃
第10回	代表的な肩関節疾患（凍結肩・腱板断裂など）の疾患概要を想起できる。				〃
第11回	肩関節疾患の評価を含めた理学療法が理解できる。				〃
第12回	肩関節疾患の評価ができ、理学療法が説明できる。				〃
第13回	関節リウマチの疾患概要を理解し、治療・検査・分類など理学療法士に必要な項目について理解できる。				〃
第14回	関節リウマチに対する評価を含めた理学療法を理解できる。				〃
第15回	試 験				
第16回	代表的な肘関節疾患（野球肘・肘内障）の疾患概要を理解し、理学療法ができる。				高田理恵子
第17回	代表的な絞扼神経障害（胸郭出口症候群・手根管症候群・肘部管症候群）の疾患概要を理解し、理学療法が説明できる。				〃
第18回	スポーツ外傷（前・後十字靭帯損傷・半月板損傷）の疾患概要と理学療法が説明できる。				〃
第19回	スポーツ外傷（前・後十字靭帯損傷・半月板損傷）の疾患概要と理学療法が説明できる。				〃
第20回	スポーツ外傷（前・後十字靭帯損傷・半月板損傷）の評価を含めた理学療法が実施できる。				〃
第21回	脊椎疾患（腰椎椎間板ヘルニア）の疾患概要と理学療法を理解し、説明できる。				〃
第22回	脊椎疾患（腰部脊柱管狭窄症）の疾患概要と理学療法を理解し、説明できる。				〃
第23回	脊椎疾患（脊柱側弯症）の疾患概要と理学療法を理解し、説明できる。				〃
第24回	脊髄損傷の疾患概論、各種分類を理解し、説明できる。				福島芳子
第25回	脊髄損傷の随伴症状を理解し、説明できる。				〃
第26回	脊髄損傷の急性期管理と合併症、評価について理解し、説明できる。				〃
第27回	脊髄損傷の急性期理学療法、離床前期理学療法を説明できる。				〃
第28回	脊髄損傷の離床後期以降の理学療法が説明できる。				〃
第29回	脊髄損傷の障害レベル別基本動作・歩行・ADLについて説明できる。車いすについて説明できる。				〃
第30回	試 験				

学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	義肢装具学 I
代表講師	本 田 智 裕 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	義肢装具士として臨床経験豊富な教員が、実際の装具を用いながら装具の特徴とチェックアウト、各疾患に対する適応や特徴などの基本的事項について講義する。また、臨床において装具療法を経験した理学療法学科教員が、各疾患に対する適応や特徴などの基本的事項について講義する。				
授 業 概 要	理学療法士は、医師により処方され義肢装具士によって製作された装具を用いて、患者に対して治療を行う。装具の名称、基本的構造と特徴を知り、その特徴を生かして処方される各疾患に対する装具について学習し、理解する。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・装具に関する基本的事項を理解し、適合判定を説明することができる。</li> <li>・装具の目的、分類、機能を理解する。</li> <li>・車いす、杖の種類とその特徴を理解する。</li> <li>・義肢装具費用の給付制度を理解する。</li> </ul>				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	『PT・OT ビジュアルテキスト 義肢・装具学 異常とその対応がわかる動画付き』、配付資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	装具学総論 (装具の定義・分類・力学の基礎等)				本田智裕
第2回	義肢装具の給付制度について				〃
第3回	下肢装具の構成部品とそのチェックアウト				〃
第4回	足継手の制御機構				〃
第5回	靴型装具の基礎、車いすの種類とチェックアウト、杖の種類				〃
第6回	疾患別装具療法① 末梢神経障害の装具 (上肢)				福島芳子
第7回	疾患別装具療法② 脳卒中片麻痺の装具 (KAFO・AFOのチェックポイント、理学療法士の関わり)				加藤孝則
第8回	疾患別装具療法③ 脳卒中片麻痺の装具 (歩行分析のポイント)				〃
第9回	疾患別装具療法④ 運動器疾患 (上肢疾患)				高田理恵子
第10回	疾患別装具療法⑤ 運動器疾患 (股関節・膝関節)				〃
第11回	疾患別装具療法⑥ その他下肢装具				本田智裕
第12回	疾患別装具療法⑦ 体幹装具				福島芳子
第13回	疾患別装具療法⑧ 小児骨関節疾患装具				〃
第14回	疾患別装具療法⑨ その他特殊疾患				本田智裕
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	日常生活活動学
代 表 講 師	次 山 航 平 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：15回(30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	臨床現場での経験を持つ理学療法士が、日常生活動作の基礎から応用を実技を交えながら講義を行う。				
授 業 概 要	日常生活動作における基本知識と技術を習得し、疾患に応じた日常生活動作の指導と支援ができるようになる。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本動作について理解し第3者に指導することができる。</li> <li>・疾患の特徴を理解し、疾患別の日常動作練習の指導や支援を行うことができる。</li> </ul>				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	『シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	日常生活活動の定義、範囲、概念、国際生活機能分類を理解し、説明することができる。				次山航平
第2回	ADL評価の概要について。				〃
第3回	日常生活活動の具体的な評価(Barthel-index)を使用することができる。				〃
第4回	日常生活活動の具体的な評価(Barthel-index)を使用することができる。				〃
第5回	日常生活活動の具体的な評価(FIM)を使用することができる。				〃
第6回	日常生活活動の具体的な評価(FIM)を使用することができる。				〃
第7回	臥位から立位までの流れを理解し、模倣することができる。				〃
第8回	移乗動作の目的・手段を理解し模倣することができる。				〃
第9回	移動支援器具の基礎知識と適応を理解し、模倣することができる。				〃
第10回	脳卒中片麻痺患者を想定して基本動作や複合動作を理解する。				〃
第11回	脳卒中片麻痺患者を想定して基本動作や複合動作を理解する。				〃
第12回	ADLを支援する機器と住環境について理解する。				〃
第13回	整形外科疾患を呈している患者を想定して基本動作や複合動作を理解する。				福島芳子
第14回	整形外科疾患を呈している患者を想定して基本動作や複合動作を理解する。				〃
第15回	試 験				



学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	理学療法演習Ⅱ
代表講師	次 山 航 平 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	実 技	単位数	1	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法業務に携わった経験を持つ教員が、基礎医学（解剖学・生理学・運動学）と各理学療法評価とのつながりについて実技を含む講義を行う。実施内容は見学・模倣を行い評価技法の実施ができるように促す。				
授業概要	理学療法評価の目的や実技を再学習し、患者様を想定して評価をすることができる。				
到達目標	基礎医学（解剖学・生理学・運動学）と理学療法評価とのつながりを学習（復習）する。各評価スキル・実技能力の向上を図り、結果からアセスメントを考えることができる。				
成績評価の方法と基準	OSCEによる実技試験 100%				
テキスト・教材等	各教員が提示したものを準備すること。				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脈拍や血圧などを基礎医学の視点で考えることができる。(解剖学・生理学)</li> <li>・バイタルチェックの目的を理解する。</li> </ul>				加藤孝則
第2回					
第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体表からランドマークを確認することができる。(解剖学・運動学)</li> <li>・周径、四肢長を計測する目的を理解する。</li> </ul>				高田理恵子
第4回					
第5回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関節構造と運動との関係性を理解する。(解剖学・運動学)</li> <li>・関節可動域検査の目的を理解する。</li> </ul>				明瀬敬二
第6回					
第7回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋解剖を理解する。(解剖学・運動学)</li> <li>・徒手筋力検査 (MMT) の目的を理解する。</li> </ul>				福島芳子
第8回					
第9回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感覚の役割を理解する。(解剖学・運動学)</li> <li>・感覚検査の目的を理解する。</li> </ul>				次山航平
第10回					
第11回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腱反射の仕組みを理解する。(解剖学・生理学)</li> <li>・腱反射の目的を理解する。</li> </ul>				坂崎浩一
第12回					
第13回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳神経の役割について理解する。(解剖学・生理学)</li> <li>・脳神経検査の目的を理解する。</li> </ul>				池田耕治
第14回					
第15回	試 験				

学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	地域理学療法学	科目名	地域理学療法学
代表講師	坂崎 浩一 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士として、地域理学療法業務に関わった教員や、介護認定審査会、熊本地震復興リハ、障害児療育支援に関与した教員が、理学療法士の視点からのリスクマネジメント、介護保険、地域包括ケアシステム、介護予防、災害支援、障害児対応について指導する。				
授業概要	社会保障制度の概要と多職種連携、リスクマネジメントの必要性と重要性を学ぶと共に、高齢者、障がい者（児）、被災地などを対象とした地域の課題解決に向けた理学療法士の関りについて学ぶ。				
到達目標	地域における理学療法士の役割を説明できる。 地域リハビリテーション・理学療法に関連する制度の概要を説明できる。 高齢者・小児における地域理学療法の概要を説明できる。				
成績評価の方法と基準	(坂崎) 65% (中間試験 50%、課題 15%) (池田) 35% (授業毎に形成的評価を実施) ※筆記試験は実施しない				
テキスト・教材等	(坂崎) 『地域リハビリテーション学 (羊土社)』、配布資料 (池田) 配布資料				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総論 地域の捉え方を理解し、説明できる。 地域リハビリテーション (地域理学療法) の歴史を理解し、説明できる。 理学療法士に求められる要素を理解し、説明できる。</li> </ul>				池田耕治
第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他職種との連携 他職種連携がどのようなものかを理解し、説明できる。 コミュニケーションの大切さを理解し、実践できる (演習)</li> </ul>				池田耕治
第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連法規、社会資源 社会保障体制の枠組みを理解し、説明できる。 医療保険制度、介護保険制度、障害者総合支援法の概要を理解し、説明できる。</li> </ul>				池田耕治
第4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域におけるリスクマネジメント 地域理学療法におけるリスクの種類を理解し、説明できる。 リスクマネジメントに必要な知識と技術が何か理解し、説明できる。</li> </ul>				池田耕治
第5回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度 介護保険制度導入の背景 (高齢社会の現状) を理解し、説明できる。 要介護認定の流れ及び介護保険制度でのサービス内容について理解し、説明できる。</li> </ul>				池田耕治
第6回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステム 地域における保健・医療・福祉の現状と課題について説明できる。</li> </ul>				坂崎浩一
第7回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステム 後期高齢者の急増と働く世代の激減、要介護認定者の増加、在宅介護力の低下、看取りの場 自助、互助、共助、公助の概要について説明できる。</li> </ul>				坂崎浩一
第8回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステム 地域包括ケアシステムの全体像について説明できる。 地域ケア会議の役割 (個別課題解決機能・地域包括支援ネットワーク構築機能・地域課題発見機能 地域づくり資源開発機能・政策形成機能) について理解する。 地域ケア会議における理学療法士の役割について説明できる。</li> </ul>				坂崎浩一
第9回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間試験①</li> <li>・介護予防と理学療法 フレイル、サルコペニアについて説明できる。 介護予防における一次予防、二次予防、三次予防の概要について説明できる。</li> </ul>				坂崎浩一
第10回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症と理学療法 以下について説明できる 1 要介護認定者の増加とその原因      2 認知症とは      3 軽度認知障害とは 4 新オレンジプラン                              5 認知症施策推進大綱 6 理学療法の視点から見た認知症予防</li> </ul>				坂崎浩一
第11回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害支援と理学療法 災害時のチーム医療 (DMAT・JRAT)、災害後の4つのフェーズについて説明できる。 生活支援のあり方と理学療法士の役割について説明できる。</li> </ul>				坂崎浩一



回数	授業内容	担当講師
第12回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間試験②</li> <li>・介護予防 介護予防に効果的な理学療法について実施できる（演習）。</li> </ul>	坂崎浩一
第13回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康増進と地域理学療法 健康づくり施策の変遷について説明できる。 健康日本 21 の概要について説明できる。</li> </ul>	坂崎浩一
第14回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終末期リハビリテーションと地域理学療法 終末期医療と理学療法士の関りについて説明できる。 アドバンスケアについて説明できる。</li> </ul>	坂崎浩一
第15回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間試験③</li> <li>・地域理学法に関するトピックス</li> </ul>	坂崎浩一

学 科	理学療法学科 2年次	教育 内容	臨床実習	科目名	評価実習
代表講師	次 山 航 平 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	実 習	単位数	3	学期・回数	後期：120時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	現役の理学療法士が病院・施設等の臨床現場において、臨床参加型実習にて、理学療法評価の一連の流れについて経験を通して教育を行う。				
授業概要	臨床実習施設で実習指導者の教育者下、患者様を評価することの過程を学習する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象患者を総合的に把握するために必要な、情報収集及び評価方法（観察・面接・検査測定）の考え方と実践力を養う。</li> <li>2. 臨床実習指導者の評価・治療場面の診療補助（見学—模倣—実施）を通し、適切な評価技法の習得、問題点の抽出、目標設定及びプログラム立案までの過程を学習する。</li> <li>3. 対象患者並びに他の医療従事者との治療関係及び人間関係の取り方を学習する。</li> <li>4. 理学療法士としての基本的な態度を習得し、専門職としての資質の向上を図る。</li> </ol>				
成績評価の方法と基準	OSCE（客観的臨床能力試験）（50%）、ポートフォリオ評価（30%）、記述試験（20%）				
テキスト・教材等	臨床実習の手引き・実習実施要項				
期 間	授 業 内 容				担当講師
3週間	<p>期 間：2024年2月13日（火）～3月5日（火）</p> <p>学習要項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習教育者が行う、情報収集を理解し協同参加（模倣）する</li> <li>・実習教育者の指導の下、評価項目を選択し見学・協同参加（模倣）・実施する</li> <li>・実習教育者の指導の下、患者情報の整理と記録をする</li> <li>・実習教育者の指導の下、データの分析および問題点の抽出を行う</li> <li>・評価内容を総合的にとらえゴール設定の考え方を理解する</li> <li>・治療の目的やアプローチ内容を理解する</li> </ul> </li> <li>2) 患者様への対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・検査・測定に関する説明と実施への了承</li> <li>・検査・測定時の安全性への考慮</li> <li>・適切な信頼関係を築くためのあいさつ・言葉遣い・態度・身だしなみ</li> </ul> </li> <li>3) 臨床教育者および職員への対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な人間関係の構築</li> <li>・報告・連絡・相談</li> <li>・助言・指導に対する受け入れ</li> </ul> </li> <li>4) 理学療法士としての資質の研鑽 <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的かつ積極的に取り組む姿勢</li> <li>・問題発見および問題解決能力の向上</li> <li>・社会規範の遵守</li> <li>・専門職としての責任</li> <li>・専門職としての倫理観と情報管理</li> </ul> </li> </ol>				専任講師 および 臨床実習 指導者